

【公告】大紀元が《共産党についての九つの論評》と題する一連の社説を発表

【大紀元 11 月 19 日報道】旧ソ連と東ヨーロッパ諸国の共産党政権が崩壊して 10 数年経つ今日、世界の共産主義運動は早くに全世界から唾棄されており、中国共産党が墳墓に入るのも時間の問題である。

しかし、中国共産党は、完全に崩壊する前に、5 千年の文明の歴史を有する中国を道連れにしようとしており、これは正に我々民族の大きな不幸と言える。共産党を如何に評価し、共産党のない社会に如何に移行し、我々民族の薪と炎を如何に後世に伝えていくか、これらはすでに、中国人民が直面する問題となっている。

一世紀余りにわたって世の中に災いを招いてきた国際共産主義運動、特に中国共産党に対して評価を下すために、大紀元は今日から《共産党についての九つの論評》と題する一連の特別社説を発表する。

80 年余りの中国共産党の歴史を振り返ると、いたるところで常に、うそ、戦乱、飢饉、独裁、殺戮、恐怖が付きまとい、伝統的な信仰と価値観は共産党によって完全に破壊され、本来の倫理観念と社会体系は強制的に解体させられ、人と人の間の思いやりや調和が闘争と憎しみに捻じ曲げられ、天地自然に対する畏敬や慈しみが「大自然と闘う」などという尊大な思い上がりに変えられてしまった。その結果もたらされた社会道徳体系と生態体系の完全な崩壊が、中華民族、更には全人類を深刻な危機に引き込もうとしている。これら全ての災難は、共産党の綿密な画策、組織、コントロールの下に行われたことなのである。

「如何ともしがたく、花散り行く。」今日余命幾ばくもない共産政権はすでに日暮れて道窮まり、その崩壊は間近に迫っている。それが完全に滅ぶ前に、私たちは、この古今東西の全ての邪悪を集めたような最大の邪教組織である中国共産党について振り返って考え直し、その悪行を暴き出す必要がある。そうすることによって、依然として共産政権に騙され続けている人々に、極悪非道な共産党の本質をはっきり認識させ、心の奥深くにまで入り込んだ共産党の毒をきれいに取り除かせ、共産党の邪悪な魂にコントロールされた心理状態から抜け出させ、恐怖の束縛から跳び出させ、共産党に対する全ての幻想を捨て去らせることができるのだ。

中国共産党による統治は、中国の歴史上最も暗く、最もでたらめな一頁である。そして、江沢民が発動した「真・善・忍」に対する弾圧は最も邪悪なものであり、この運動によって、中国共産党の棺に最後の一本の釘が打たれることとなった。この歴史を今振り返って考え直すのは、このような悲劇を二度と繰り返させないためである。同時に私たちは一人一人、これを機に自らの心を内省すべきである。多くの起こるべきではなかった悲劇は、私たちが懦弱であり妥協したがためにそれを引き起こさせてしまったのではなからうか。

《共産党についての九つの論評》シリーズのタイトル

- その一：共産党とは一体何物かを評する
- その二：中国共産党はどのようにでき上がったかを評する
- その三：中国共産党の暴政を評する
- その四：共産党が宇宙に反することを評する
- その五：江沢民と中国共産党が互いに利用しあって法輪功を迫害していることを評する
- その六：中国共産党が民族文化を破壊したことを評する
- その七：中国共産党の殺人の歴史を評する
- その八：中国共産党の邪教的本質を評する
- その九：中国共産党のならず者の本性を評する

大紀元編集部からのお知らせ

2004 年 11 月 18 日 (<http://www.dajiyuan.com>)